

1 現行の通行量調査の現状と課題

○現状

調査方法：調査員による計測
 (1時間のうち、各方向20分間実測。その値を3倍して1時間の通行量として算定)
 調査開始：昭和52年
 調査項目：男女別、時間帯別、方向別
 調査時期：年2回(6月、12月)、平日・休日2日(10~18時)
 調査地点：15カ所(高知市中心商店街10カ所、周辺商店街5カ所)
 実施主体：高知県商店街振興組合連合会

○データ活用方法

高知県商店街振興組合連合会：新規出店希望者からの問い合わせへの活用
 高知県：高知県産業振興計画(目標数値)
 高知市：高知市総合計画(成果指標)、第2期高知市中心市街地活性化基本計画(目標指標)

○課題

・個店の販促等や商店街の活性化に活用できていない
 ・季節や月ごとの状況、早朝・夜間の人の流れが把握できない
 ・毎年の変動が大きくデータの信頼性が低い(天候やイベント等に左右される)
 ⇒調査員(人手)による計測のため、年間の調査日数が少なく、天候など関連する他のデータと紐付いていないことから、データを戦略的に経営に活用することができていない。

2 目指す姿

コロナ禍で疲弊する商店街の再生モデルを確立

- デジタルデータの活用・分析により来客増・売上拡大・コスト適正化を図る「データ駆動型経営」の手法を導入する
- そのための「データ収集・分析基盤(下図A)」と「分析システム」を構築する 注)B個別データは各店舗が構築(任意/外部には公開しない)
- 小規模な個店にとってもメリットが感じられる方策を併せて検討する

例) 個別データ(下記B)を有しない店舗に対して、共通データ(下記A)の分析結果に基づき経営上の有用なアドバイスを実施

高知工科大学との連携によりデータ収集・構築(下記B)や分析手法・操作についてサポートする(無償or格安)

